

カルイ 樹木粉碎機が各地で活躍

大都会のオアシス保全に

曹洞宗大本山總持寺が導入

(株)カルイ 山形県山形市鑄物町46-1 西部工業団地 ☎023(645)5710・高橋和成社長は今年4月に創業100周年を迎えた。同社の長い歴史の中でも、特に「樹木粉碎機」は昭和50年に国産1号機を世に送り出して以来、同社の提唱する「粉碎からはじまるエコロジー」ともあいまって活躍の場を広げている。



田淵禅裕さん

剪定枝処理の重労働解消や、粉碎したチップの肥料化など多用途に用いられる粉碎機だが、今回、神奈川県横浜市鶴見区の曹洞宗大本山「總持寺」でも広大な境内地の環境

整備に導入されると聞き取材に伺った。總持寺は明治44年に能登より現在地に移転。石原裕次郎など著名人の墓所としても知られ、連日参拝者や見学者が数多く訪れる名刹。10万坪にもおよぶ境内地は年間を通して緑に覆われ、大都会のオアシスとしての役割を果たしている。

カルイの樹木粉碎機「チップスターKSC-1300B」が導入されたのは2年ほど前のこと。「以前は造園業者に委託し、境内地の樹木の枝剪定・処理をお願いしていたが、費用面も含め大変でした」と語るのは同寺直歳寮(しゅすいり)よう。一般企業での総務・管財部署にあたる)の田淵禅裕さん。「何か良い処理方法はないものかと



チップスターを使った作業の様子



関東甲信クボタ・清水所長と修行僧の皆さん

探していたところ、樹木粉碎機に行き当たりました。このこと。「今では剪定枝をチップ化し、そのまま樹木の根元などに撒いています。お陰で費用も軽減されました」と

満足そうな表情を見せた。また続けて「土から生まれた木の枝を土に返すことにより自然環境保護に貢献していると思います」と語ってくれた。

機械の使い勝手について聞くと、「寺では3ヵ月毎に担当を交代し作業していますが、簡単な操作で使えるのがありがたい。粉碎すると同時に土に撒いていますが、肥料としてリサイクルできる上、草も生えにくくなるので大助かりです」と話している。現在、ほぼ毎日のように修行僧の皆さんが作業を行なっている。故障時などのメーカー側の対応についても「スピードアード的対応をしてくるので、私どものようなヘビーユーザーでも安心して使えます。購入後ハンマーナイフの刃が欠けてしまった時も、すぐ修理してくれましたし、なぜ壊れたのか原因についても分かりやすく説明してくれました。故障の原因が分かるとうれしく、安心して使えます。製品開発にもそれが活かされているようです。売りっぱなし

ではなく、何でも聞けるのはうれしいことです」と語ってくれた。

販売を担当した(株)関東甲信クボタ平塚営業所の清水浩之所長は「購入していただく前に、カルイさんの担当者が出前実演を行い、使い方を説明していただきました。これからは故障など緊急時には万全のフォローアップをさせていただきます」とユーザに密着したアフターサービスを約束していた。

導入されている「KSC-1300B」の特徴は次の通り。

▽高い粉碎性能 最大粉碎径130mm、排出プロアとスクリーンを標準装備。粉碎方式は異物に強いハンマー式でより均一なチップを排出▽あらゆる粉碎が可能 剪定枝や腐パレット、廃木枠梱包材等の釘、ビスが付いたままでも投入できる▽優れた走行性能

レバー式サイドクラッチ採用で旋回が楽な上、複数変速ミッション(前進2速・後進1速)により優れた走行性能を発揮▽楽々メンテナンス 上部カバーとフロア部が工具なしで開けられるのでメンテナンスも楽。

機体寸法は全長1790×全幅770×全高1200mm、重量は410kg。エンジン最大出力は12.8馬力で供給方式はマイコン制御送り。非常停止ボタン付で安全面にも配慮している。

【訂正】 本紙8月23日付3面の記事、生産現場の声を聞くの中で、9段目8行目からの内容が一部間違っておりまして、正しくは、「今年は肥料を多くせず収量は多くはしない」です。謹んで訂正するとともにお詫び申し上げます。